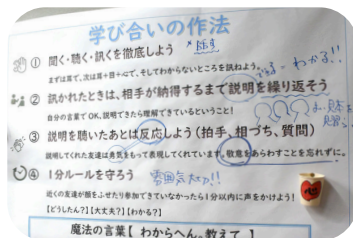


第2回校内授業研修会

兼 小中合同授業研修会

2025.09.12(金) 文責：山口



生徒と共に作る「授業づくり」

第2回校内授業研修会が行われました。今回はブロック内の小学校の先生方も参加し、9年間を見通して目指す資質・能力についても協議しました。没頭できる授業とは？そのための課題設定は？

京都大学准教授（京都市教育委員）の石井 英真 先生の講演からも考える視点をたくさんいただきました。

国語の授業の様子

“安心×没頭”できる、学び合いの姿。

2年生国語では、小説「ヒューマノイド」について作者がこの作品で書きたかった「恥」とはどんなものだったのかを考えました。各グループでそれぞれ考えた視点を全体で交流しました。安心してできる環境だからこそ自分の考えが述べられる。そして素直な気持ちで仲間の考えも聞くことができる。多様な価値観にふれながら、さらに題材を読み深めました。



理科の授業の様子

「わからない」が、次の課題を生むヒントに。

3年生理科の授業では、浮力の大きさについて船を用いて説明できるように考えました。どうすれば船が沈まず浮くことができるのか。各班で実験を行いながら考えを深めました。そして、「わからない」「あと一歩でできそう」などそれぞれの状況を全体で共有しながら「学び合い」を深めました。「わからない」から始まり最後は実生活と結び付け思考するまでに深まりました。



「共同注視」の関係と「学び」を超えたそのとき

“分かった”だけで終わらせない。

生徒の声「もう少しやってみたい」や「この後はどうなるの」など、学びを深めた後には次の疑問や考えが浮かんできます。このことをしっかり振り返り、アウトプットすることも大切な視点です。自分たちの学びの原動力、課題から解決へと向かう思考の体力づくり。この日も生徒たちは最後まで“気づき”を形にすることができていました。

事後研修会について



授業を見る視点

生徒たちの学びの姿を観察し、どのような学びが行われていたのかを振り返ります。生徒たちの「手元」は？「顔」は？そして、この時間の「動詞」は何だったのか。



生徒たちも協議に参加

私たちの目指す「学び」とは生徒たちも研究協議に参加し自分たちの学びについて考えます。先生たちの本気が生徒たちの本気へとつながります。



石井先生からのご講演

「子どもが没頭する授業づくり」について。「モヤモヤ」「半分かり」の状態が次につながる。「思考の体力づくり」など様々なヒントを頂きました。